

ビハラーリポート

No.13

MARCH

1995

CONTENTS

公開講座	玉川お福さんの芸とお話を聞く会	2
報告	耕田寺住職佐々木賢龍 阪神大震災被災地を訪れて	5
Book Review	金子みすゞの世界	8
INFORMATION		10

ビハラー Vihara

休養の場所、気晴らしをすること、僧院または寺院

『漢訳対照梵和大事典』

- 一、病人に供給す 二、病のために医薬の具を求む
- 三、病者のために看病人を求む 四、病者のために法を説く
- 五、余の比丘のために法を説く 六、法を聞いて教化す
- 七、大徳のものに供養し、恭敬するために 八、聖衆に供給するために
- 九、深経を読誦するがために 十、他に教えて深経を読みしむ

『十住毘婆沙論』卷第十六

講演

ビハラー公開講座

玉川お福さんの芸とお話しを聞く会

1994年11月1日 比内町特別養護老人ホーム「扇寿苑」
鷹巣町北秋中央病院

原保江（玉川お福）

私達が原保江さんのことを知ったのは、7月10日付けの秋田魁新紙上でした。2度の大きな病を乗り越え、さらに浪曲という未知の世界に飛び込みプロにまでなってしまったパワーはどこから来るのだろう。さっそく連絡を取り話しをしているうちに、そのパワーを多くの人達に分けて欲しいと考え、公開講座という形でお話しと芸を聞かせていただくことになりました。しかも当代一流とうたわれる師匠の玉川福太郎師匠が前座をつとめ、曲師が奥様の玉川みねこ師匠という豪華な顔ぶれとなりました。当日の様子は11/23のNHK列島ドキュメントでも放映になりました。この講演録は中央病院でのお話しをまとめたものです。

2度の手術から浪曲の世界へ

こんにちは、玉川お福と申します。師匠の玉川福太郎の後にでてるなんて10年も20年も早いんですけども、今日は師匠が前座を勤めてくれまして、そういう人情の篤い師匠でございます。師匠のもとについて1年8ヵ月になります。もう何ヵ月かで還暦なんですけど、その私が何故浪曲の世界に入ったかということをお話ししたいと思います。2年半

くらい前に子宮癌の宣告を受けまして、それで手術の日も決まって入院しましたら、心臓を手術しなくちゃいけなくなったんです。それで心臓と子宮癌の手術を半年おいてやったわけなんですね。心臓を手術すると1級の身体障害者ということになるんです。見た目には分かりませんでしょ。手帳も持って歩いているんですよ。

子宮癌と心臓と、どっちを先に手術しようかという話しになりました

病気と戦う

て、麻酔科と心臓外科と婦人科で随分お話しくささいました。心臓が先じゃないか。いやいや、心臓を手術すると血液がさらさらになる薬を飲まなきゃいけないから、子宮の手術が出来ない。後は本人に任せようということになりまして、婦人科の先生を全面的に信頼しまして、婦人科の手術を先にやったんです。その半年後に心臓の手術をやりました。どちらも5時間の手術でしたけれども、今も心臓と婦人科の薬を飲み続けています。

浪曲をやってよかったなと思うことは、下っ腹から声を出すということ、たいへんリハビリになるんですね。皆さんもリハビリをやってらっしゃる方もいると思うんですが、声を出すことはいいリハビリなんですね。まだ退院して何ヵ月も経たないころから浪曲を初めたんですね。どうして浪曲だったかといいますが、婦人科の手術をした後のリハビリは歩くことなんです。歩くと心臓に負担がきますでしょ。疲れて歩けないし、お腹はいたいし、もうたいへんだったんです。激痛がくるんです。一人でウーってこらえていましたけど。そんな経験を経て、それじゃ私にとって何がいいだろうかと考えて初めたのが浪曲だったんです。

私は浪曲やってて本当によかったなって思います。定期検診で一週間の入院でカテーテル検査をするんですけど、退院した後は私には浪曲があると思うと、前の入院と気持ちが全然違うんですね。ですから、皆さんも病気と戦っていらっしゃるんですけども、体が病気と戦っているんですから意志が負たら駄目ですよ。御自分の意志をしっかりとってください。私も看護婦さんにそう言われたんです。そういわれてはっと気が付くんですね。元気なときには気が付かないんですよ。

心臓手術した後は3メートルも歩けないんです。手洗いにも行けないんですね。途中で倒れちゃうんです。力が無いから。1ヵ月入院すると回復するのに3倍の3ヵ月かかるって言いますよね。私は1年病気しましたから3年かかるんです。でも今のところ90%位回復しています。こうやって元気に、いい着物着てられるなんて、信じられません。今日は私の旦那も来てますけれども、みんな事後承諾でしたけれども、好きな浪曲をやらせてもらっています。皆様もこれからなにかやろうかなって思われる方がいらっしゃると思います。私の場合はたまたま声を出すのが好きでしたから浪曲を選んだんで

お仕事が残せると思います。

残せるって言いますと、私はちょうどバリバリ仕事をしている最中に具合が悪くなりましたので、私がこのまま社会においてけぼりになったら、私は社会にいったい何を残したのかなと思ったときに淋しくなりましたね。このまま死んだら嫌だ、何かしらやらなきゃいけないものがあるんじゃないかと思ってましてね。それが今与えてくださってます浪曲だと信じています。今日ここに来ましたのは、私は大館鳳鳴高校出身なんですけれども、東京の同窓会で一席やったことがあったんです。それが秋田魁新報に載りまして、それが御縁でビハラーの方に呼ばれたんです。で、今日こうして皆さんとお会いすることが出来たということは、私は運がいいんだなあと思います。これも浪曲をやってきたおかげだと思っています。ですから、皆さんも今日から病気に負けない意志をもって何かを始めてください。そうしますと自分の目の前が変わってくると思います。

ショック、ショック・・・

子宮癌を手術したときに、同室に末期の方がいらしたんですね。カーテンの向こうにいきたくないって泣いたときに、同室の人がみんなもらい泣きしたんですね。みんなが食事

をしている時も、食べたくないと言ってジーンと食事を見ているだけなんですね。そんなことなどをずっとメモしていたんですよ。それが3冊くらいになったんですね。ところが病床でかいているもんだから、ミミズが張ったような字なんですね。これ読み返すのはいやだなと思って、活字にしてみえって考えたんです。それがこの『心臓外科病棟』です。この中で「ショック、ショック、ショック、ショック」とショックを4つ書いてありますけど、まず癌ですっていわれたときのショック。精密検査をして心臓の手術が必要ですっていわれたにが2つめ。今度は心臓手術すると身体障害者1級ですって言われてそれもショック。それから七夕の7月7日があなたの心臓手術日ですよ。数%の危険がありますから七夕があなたの命日になるかも知れませんよ、とはっきり言うんですね。これが4つめのショック。今でも七夕が来ると、ああ生きているんだって思います。

今も書き続けているんですね。題名も決まりました。発表してはいけないんでしょうけれども、『生きている』という題名です。少しは市販したいなと考えているんですけども。また皆さんの方でこういう話しが聞きたいとか、私はこうだったよというのがありましたら教えてくださいね。参考にして勉強させていただきたいと思います。

阪神大震災被災地を訪れて

佐々木賢龍

阿仁町耕田寺住職

未曾有の大惨事となった阪神大震災からちょうど1ヵ月たった2月17日、現地の寺院に入って救援活動をしてきた佐々木賢龍氏から、現地の状況を報告してもらった。

マスコミの報道では知ることのできない現地の生々しい状況は衝撃だったが、被災して避難所や壊れた自宅にいる人々が「ボチボチいなか」「ほな、御馳走になりましょか」と関西人の独特な陽気さを失っていない様子は、明るい希望を与えてくれる話だった。

今度の大地震は痛ましい出来事ではあったが、一方で殺伐とした現代社会の中に人間の強さや優しさが健在だったことを教えてくれた気がする。災害に備えての教訓ばかりでなく、人間にとって一番大切なことは何なのかを、我々はこの震災から学んだのではないだろうか。

賢龍師に報告をまとめて頂いたのでご一読ください。

現地へ

去る1月31日より2月9日までビハラの支援を得て神戸市へ救援活動に行ってくる事ができました。これも偏にビハラ会員皆様のご協力の賜物と心より感謝申し上げます。特に、ビハラ代表、竜泉寺さまと梅花講の方々、NTT職員の

皆様には物資を送っていただき心より感謝申し上げるとの旨、避難所より御礼の言葉があったことを付記させていただきます。

現地の状況が全く分からないため寝袋、食料に干し餅、水、医薬品と着替えをリュックに詰め込み急ぎ出発した。当初、飛行機で行くつもりだったが、大雪のため新幹線に予定変更したためだ。

主たる目的地は神戸市東灘区にある向栄寺への慰問でしたが、ご指導を頂いている方が尼崎で全昌寺住職をされているので、前以て事情をお話ししてご支援、ご指導をお願いしていた。

迷い

話は前後してしまうが、20日頃までは『自分でできることをすればいい。』と思っていたのだが、本山で修行を共にした友人が子供を2人失い建物も全壊状態にある、と兵庫の知人から連絡を受け、もう居ても立ってもいられなくなってしまったのだ。

しかし、自分のこともある。ただではいかれない。除雪もある。葬式はどうでしょうか。また、神戸に行って却って迷惑をかけるのではないかという恐れもあった。等々、考えれば考えるほど心の奥底と裏腹な答えが返ってくる。

悩む私にマタギ研究者で作家の田口氏が「いまの宗教者は口ばかり、行ってこいよ」の一言で決め。家のことは近所の人に、お寺のことはビハラー事務局に有無を言わせずお願いして家を後にした。

惨状のなかで

午後9時に尼崎到着。翌朝バイク

を借用し向栄寺へ。

本堂は残っているものの庫裏、客殿は1階が潰れ、隣接のアパートは全壊であった。近所の家屋もほぼ全半壊で住民も疎であったが、お寺の後ろにある公園は避難所となっているため、鈍く動く人影がみえた。空は青く温かい日差しとは対照的で被災者の心理状況を表しているかのようだ。

向栄寺の副住職の和雄さんは手伝いにきていた友人らと共に笑顔で私を迎えてくれた。彼は「雪は沢山でしょう。」「家の方は大丈夫ですか。」「と心配げにいたわりの声を掛けてくれ、私は来る途中考えてきたお悔やみと励ましの言葉を失ってしまった。それは私にだけではなく行き交う人、お参りの檀家さんにも同様であった。自分の悲惨な状況より他人への思いやり、私には到底出来ない、つくづくそう思った。彼は逆境の中でさらに優しく成れる人だった。

現地の状況

1日目は向栄寺の仏具を預ける予定のお寺へ行き荷物運びを手伝う。しかし、此のお寺も倒壊の怖れがあるということで隣の建物へダンボール箱で約100個の仏具を移動する。結局、向栄寺の仏具を預かってくれるところがなくなってしまっ

た。

2日目、1階は潰れているため2階の窓から中に入る。建物が傾いているため、中々まっすぐには進めない。2、30分歩き回っていると気分が悪くなり休んだ。疲れかな、と思っていたら「酔ったでしょう。」と笑って言われ「すぐに慣れますよ。」それでも乗り物酔いしやすい私は慣れることはなかった。また、埃がすごい。壁が土で作られているのか、数時間で口はジャリジャリになり、叩けばほこりの出る身体となってしまう。このような状況の中で毎日の作業は進められる。

2階のフロアーをこじ開けわずかに残った隙間の1階へ潜り込む。書類、日用品、貴重品を取り出そうとするが壁が蔽いかぶさり釘があちらこちらから顔を覗かせているため思い道理にならない。そのうえ、あるはずの場所から数メートルも跳んでいるものもあり、地震の凄まじさをまざまざと見せつけられた。

3、4日目毎朝の日課となっているのだが、倒壊したアパートから燃えやすい角材を避難所へ選んで運ぶ。これは避難所に燃料がないためと生活に密着した知らせは新聞テレビでは入ってこないのが情報を得るためだ。

避難所の広さは約3反歩。自衛隊の建てたテントと民間で建てたものと合わせて20張りほどある。また、斜向かいに会館があり20人ほ

ど寝泊まりしている。仮設トイレは3つ。食料は豊富にあるがいつも同じメニューの上、生鮮野菜はほとんどない。統括は地元民生委員2人でしているとのこと。

それぞれの思い

避難所の生活も厳しいが、向栄寺も食料と物資の配給がないため、3度3度の食料雑貨の買い出しの毎日が大変だ。

本堂下の納骨堂の整理を始める。

100幾つかある棚は全て倒れてしまい、中にはお骨の跳びだしたものもある。ここは半地下になっているため薄暗く、位牌堂も兼ねているので歩くと下に落ちた線香立ての灰が舞い上がる。位牌、蓮華、蠟燭立ての片付け、整理と細かい作業だ。片付けは目に見えては進まない。夜は中々眠れない。帰りたく、否、逃げ出したいようになってくる。何で来たんだろう、そろそろ理由をつけて帰ろうか。寝袋の中で後悔が先に立ってくる。

誤解を招かぬよう付け加えておくが、和雄さんも奥さんも決して「あれをして欲しい」とか「これをして」等とは言わない。こちら側からできることを探して了解を得てから仕事を始める。「申し訳ない。」
「そんなことまでさせられない。」
たいしたことではないのだが、私の

ような無頼で横柄な人間とは違い心配りが細かい。

8日目まであっという間に過ぎ去ってしまった。仕事はまだまだ残っている。別れが悲しいのと悔しい気持ちでいっぱいだ。自分だけ日常の生活に逃げ帰ってしまう。彼らには昔のような日常の暮らしはない。埃と瓦礫、そして子供のいなくなってしまった暮らし。ただ目の前の現実だけしかないのだ。

6日目の夜のことであった。有馬温泉の無料券が郵送されてきたので久しぶりに入りに行った。風呂を出て寿司屋のカウンターに座りビールを飲んだ。今まで子供の話は一切しなかった彼から2月の始めにこのホテ

ルを家族で予約していた話を聞いた。胸に込み上げてくるものがあったが、彼は長男が好きだったという鉄火巻を大きな口を開けて放り込み、めくるめく思いを押し殺したのが忘れられない。

復興が進んでいるのは公共機関だけ。毎日の生活は非日常的な現実が重くのしかかっている。現実と日常の接点を被災者の方達が見いだせるまで救援活動をお祭り騒ぎで終わらせてはならない。

和雄さん夫婦の幼い子供達とおおくの震災でなくなられた方達の冥福を祈り、報告とさせていただきます。

BOOK REVIEW

金子みすゞの世界

昨年8月、秋田放送の「知ってるつもり」で「金子みすゞの生涯」が放映され、また1月13日付けの朝日新聞では、みすゞの詩に感動し、世に紹介しようとしている仲間たちの間で、みすゞの詩集や関連の本の売上でネパールに小学校を建設しようという計画が報道されました。ご覧になった方も多いかと思えます。金子みすゞの生涯や作品、ネパールに小学校を作る運動との繋がりなどを朝日新聞の記事をもとに紹介したいと思います。

.....
大正時代の童謡界に彗星のようにあらわれ、「大漁」など弱者に身を寄せた詩を残しながら26歳の若さで命を絶った金子みすゞ。その作品を愛する人々が、ネパールに「みすゞ小学校」を作る募金を運動を進めている。

発端は今年の春だった。みすゞの作品ノートを没後半世紀ぶりに発掘した作家の矢崎節夫さん(47) = 東京都文京区 = が、辻説法で、みすゞをかたる僧、酒井大岳さん(59) = 群馬県吾妻郡東村 = から、

ネパールに小学校を送る運動を続けている人の話を聞いたのだ。

その人は、酒井さんの友人で、写真家のオギノ芳信さん(58) = 群馬県箕郷町 =。撮影旅行でネパールの貧しさを知り、日本ネパール友好協会を設立。自分の収入も注ぎ込んで、これまでに13の小学校を完成させている。矢崎さんはひらめいた。「モノだけは豊かな私達だから、心の豊かさを持っているネパールの子供にこそ何かできる。みすゞさんを愛する人に呼びかければ、きっと手伝ってくれるはず。」

アイデアを聞いたオギノさんも「みすゞのさんの作品『積もった雪』を読んで、ネパールの子供たちの純粋さにつながるな、と思った」と賛成し、運動が始まった。この春までにまず1校分の600万円

を集めるのが目標。矢崎さんや酒井さんが各地での講演で呼びかけると、老若男女を問わず、聴衆の大半がカンパをしてくれる。家族や友人の分まで寄付し記名する人が目立つという。「役立てて下さい」と10万円を送ってきた母娘もいた。

出来上がった小学校には「みすゞ小学校」のプレートをはめこみ、寄付を寄せた人の名前を書いた板を土台に埋め込む予定だ。

.....

この話しに感動した秋田市のさとう書房さんでは金子みすゞ関係の本やカセットテープを「金子みすゞの世界」と題して取り扱い、建設基金に協力していくそうです。お買上は是非さとう書房さんで。

(TEL・FAX 0188-31-3110)

金子みすゞの世界

- | | |
|------------------------------|--------|
| 1、新装版 金子みすゞ全集(全3巻)解説・矢崎節夫 | 8,800円 |
| 2、金子みすゞ童話集/わたしと小鳥とすずと 選・矢崎節夫 | 1,236円 |
| 3、金子みすゞ/ほしとたんぼぼ [絵本] 選・矢崎節夫 | 1,300円 |
| 4、金子みすゞの詩を生きる 著・酒井大岳 | 1,300円 |
| 5、カセットテープ ほしとたんぼぼ 作曲・歌・吉岡しげ美 | 1,545円 |
| 6、童謡詩人金子みすゞの生涯 著・矢崎節夫 | 3,500円 |

金子みすゞ

1903年、山口県長門市生まれ。本名テル。下関の書店で働きながら童謡をつくり、「赤い鳥」「童話」に投稿。西条八十から高い評価を受けた。だが結婚した夫から病をうつされ、離婚直後、1女を残して26才で服毒自殺した。

大漁

朝焼小焼だ/大漁だ/大羽鰹(おおばいわし)の大漁だ/浜は祭りの/ようだけど/海のなかでは/何万の/鰹のとむらい/するだろう。

INFORMATION

能代ホスピス・ケア勉強会発足

能代市の本澄寺住職・医師の柴田寛彦氏が能代市で「能代ホスピス・ケア勉強会」を作り、活動を始めることになりました。毎月第3木曜日が例会日で、能代市中央公民館視聴覚室で、読書会や学習会、講演会などを予定しているとのこと。参加は無料で、ビハーラ会員にも参加を呼びかけています。連絡先は本澄寺様（TEL0186-52-4623FAX54-2615）まで。

今後の日程

- 3 / 16 柴田寛彦（本澄寺住職・医師）がん告知について考える
- 4 / 20 三浦一樹（能代山本医師会病院）ターミナル・ケアの現状と未来
- 5 / 18 東山はま子（在宅看護支援センター室長）入院と在宅のはざままで
- 6 / 15 安部美恵子（能代市在宅福祉相談員）何を求めているのか
- 7 / 20 袴田俊英（ビハーラ代表・月宗寺副住職）ビハーラのめざすもの

いのちの電話を考える会活動中

現在、秋田市で「いのちの電話を考える会」が勉強会を行っています。

「いのちの電話」は全国組織の会であり、相談員も60時間の研修を経たボランティアがあたるというものです。この組織を自殺の多い秋田県に作りたくと、山内政志氏（TEL0188-75-4410）らが中心になって設立に向けた活動と、ボランティア養成の読書会を行っています。次回の読書会は4/8（土）秋田市のジョイナス（旧県立図書館）において行います。興味のある方は是非どうぞ。

次回ビハーラセミナー

看護の現場から

米内沢公立病院総婦長 湊智子氏

3月17日 午後7時 鷹巣阿仁広域交流センター第1研修室

先回の佐々木賢龍氏のセミナーに併せてビハーラ総会を行いました。席上、承認されました活動報告書や予算決算書をお届けしますのでご覧下さい。

次回セミナーは5月に行う予定で、現在弘前市の開業医・木村然次郎氏と交渉中です。お坊さんになりたかったお医者さんということで、楽しいお話しが聞けそうです。

ビハーラリポート

第13号 1995年3月16日発行

ビハーラリポート発行所

ビハーラ代表 兼能代山本地区事務局

藤里町月宗寺内 袴田俊英 0185-79-2468

大館地区事務局 越姓玄悦 0186-49-

6957

比内地区事務局 小林匡俊 0186-55-

1144

森吉地区事務局 奥山亮修 0186-72-

4143

阿仁地区事務局 今井典夫 0186-82-

2418

鷹巣地区事務局 佐藤俊晃 0186-66-

2032